

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	河川課長 田中 悟	電話番号	0852-22-5195
----------	-----------	------	--------------

事務事業の名称	河川維持修繕事業		
目的	(1) 対象	流域住民	
	(2) 意図	適正に管理することにより流域住民が安心して暮らせるようにする	
事業概要	県河川管理施設の機能を良好な状態に保つため、特定構造物改築事業及び県単河川修繕事業を実施する。 長寿命化対策として水門、樋門、排水機場の222施設のうち早期及び緊急措置段階である健全度Ⅲ、Ⅳの192施設について5年間で実施する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	護岸等の修繕箇所数	目標値	60.0	60.0	60.0	60.0	箇所
			取組目標値					
	式・定義	年毎の護岸等の修繕箇所数	実績値	64.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名	水門・樋門・排水機場等の長寿命化対策施設数	目標値	77.0	116.0	154.0	192.0	施設
			取組目標値					
	式・定義	水門・樋門・排水機場等の長寿命化対策済施設数	実績値	35.0				
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,134,806	1,528,234
うち一般財源 (千円)	668,515	1,044,397

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

護岸等の修繕は、巡視・点検の結果や地元等からの要望のうち、優先順位の高い箇所について工事を実施している。また、長寿命化対策については、点検による健全度から判断し、計画的に工事を実施している。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

平成27年度は、護岸等の修繕については、目標値60箇所に対し達成率107%となり、概ね目標を達成した。
河川管理施設の長寿命化計画の見直しを行った。
毎年、水門・樋門・排水機場等の全施設について専門業者による点検を実施することとした。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
限られた予算の中、修繕要望箇所が多く全てに対応することが困難。
長寿命化対策においては、年数経過に伴い老朽化施設の増加、対策箇所の拡大等が生じ、費用が膨らむ傾向にある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
長寿命化対策については、交付金事業である特定構造物改築事業の採択要件を満足する施設が11施設と少なく、ほとんどを県単河川修繕費にて対応せざるを得ない。
- ③原因を解消するための「課題」
特定構造物改築事業で採択されない小規模施設に対する交付金制度の新設又は拡充。(H28新規制度として応急対策事業(交付金事業)の拡充が行われたが、事業化に向けての細部が確立されていない。)
効果的な事業の執行、特に長寿命化対策については、職員の技術力(健全度判定、工法選定、対策時期の見極め等)の向上が必要。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

応急対策事業採択に向けての国への働きかけ、応急対策事業で実施可能な施設の掘り起し及び交付金のスタミナ検証。
長寿命化対策に関する技術力向上のための研修会の実施。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)